

私は、平成 24 年 9 月 3 日から 9 月 7 日までの一週間、中部森林管理局飛騨森林管理署におけるインターンシップに参加させていただいた。本レポートでは、その際の実施内容、またそれらから学んだことを記す。

初日、挨拶とオリエンテーションを終え、午前中は治山事業個所視察を行った。対象地は、古川町黒内国有林で実行中の復旧治山事業地である。間伐材利用促進を考慮した残存型枠工法が印象的であった。午後は、巨樹巨木及び林木遺伝資源保存林の視察、その後利用間伐実行個所の視察を行った。林木遺伝資源保存林では、ハーベスタ、プロセッサ等高性能林業機械による玉切りを見学した。

二日目は、森林共同施業団地の視察、ミズバショウ群生地視察を行った。また、予定には無かったものの、時間に余裕があったため、ドイツ式屋根型構造林道の見学も行った。

森林共同施業団地の視察では、高山市一色・山中山地域森林共同施業団地の中間土場において、森林・林業再生プラン、森林共同施業団地についての説明を受けた。

三日目は、午前中に森林施業体験等としてヒノキ若齢林の枝打ち・除伐を体験した。その後、国有林の境界管理体験を行った。境界管理体験では、民有林と国有林の境界にある境界標の確認、コンパス測量による簡易な境界標の発見を体験した。

四日目は間伐調査体験等とし、間伐木の選定を体験した。実習には標準地調査を用い、コンパス、メートル縄によるプロットの作成から林分密度管理図を用いた間伐後 RY の算定までを行った。また、その他の森林調査法として、ビッターリッヒ法を体験した。

最終日は、森林保護活動体験等として、乗鞍国有林において高山パトロールのアシスタント参加をした。ゴミ拾いや倒れた杭の立て直しなどを行ったが、ゴミはほとんど落ちていなかった。

これらの実習の多くは、大学での勉強で得た知識が実際に現場でどのように生かされるのかを学ぶことができる、大変有意義な体験であった。また、知識を現地で復習する形にもなり、知識の定着がより強くなった。そして今回の経験は、社会にとっての技術者とはどういったものであるべきかを考えるきっかけとなり、私のこれからの人生の土台を形作るために大いに生かしていきたいと思う。